

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価」（最終評価）
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立九条幼稚園

令和8年 3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○様々な予測困難な状況の中、幼児や保護者の安全への意識向上を目指し、教職員も想定される災害や緊急時に備えた訓練と共通理解を繰り返しながら、突発的な状況に対応できる力をつけていくことが重要であると考えます。

○幼稚園では、安心・安全な教育環境のもと、幼児を取り巻く人的・物的環境を整え、一人一人の子どもの実態に応じた保育を行っている。その教育内容について、保護者を中心として、より広く分かりやすく発信していくことが、地域に開かれた幼稚園運営のために必要である。より充実した保育内容の発信を工夫していきたい。

○幼児は、様々な直接体験を通して興味や関心をもち、友達と関わりながら遊びを楽しんでいる。幼児の心を動かす環境の工夫や保育内容の充実のため、活動のねらいや保育内容についての振り返りを丁寧に行い、教職員同士の共通理解を図り、幼児がより興味や関心を高め、主体的に活動できるようにしていくことが重要である。

○これまで手作り教材を活用した保健指導の工夫を継続してきたことで、幼児、保護者ともに健康への関心や意識が高まってきている。今後も、幼児の健康的な生活への関心を高め、良質な生活習慣の定着につないでいきたい。そのためにも、幼児の発達段階に合わせた保健指導の工夫と、保護者への発信が、さらに必要であると考えます。

○様々な人と交流する機会をもてるようになってきた。様々な人との交流は、相手に親しみや憧れの気持ちを感じたり、優しく接しようとしたりするなど、幼児の人と関わる力の育成において、大きな成果をもたらすものである。そこで、交流活動をさらに工夫していきたい。少人数であることを生かして、園内の人的交流の充実も図っていく。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

○令和7年度末の保護者アンケートで、「子どもは、幼稚園に行くことを楽しいと思っている」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、遊びを中心に直接体験を大切にした教育活動に取り組んでいる」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。

○令和7年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、子どもの発達段階に合わせて、健やかな体を育む指導をしている」という項目において、「肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、様々な連携や交流活動を工夫している」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○令和7年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、子どもが安心して思いを出し、幼稚園生活を楽しめるよう指導を工夫している」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○令和7年度末の保護者アンケートで、「子どもは、『やってみたい』と、身近な環境に興味や関心をもって、好きな遊びを楽しんでいますか」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

○令和7年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、自分の心や体を大切にしようとする指導に取り組んでいる」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○令和7年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、近隣小・中学校や地域の人と連携し、様々な交流活動を行っている」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

○中期目標の結果として、令和7年度末保護者アンケートにおいて、それぞれの項目において肯定的な回答をする保護者の割合は、次のとおりであった。

- ・「子どもは、幼稚園に行くことを楽しいと思っている」97%
- ・「幼稚園は、遊びを中心に直接体験を大切にされた教育活動に取り組んでいる」100%
- ・「幼稚園は、子どもの発達段階に合わせて、健やかな体を育む指導をしている」100%
- ・「幼稚園は、様々な連携や交流活動を工夫している」100%

○今年度の目標も含め、保護者アンケートは、全項目について肯定的な評価を得ることができた。今後もそれを維持していく。教育内容充実のため、評価を次に生かしながら、取組を工夫していく。

○幼児の興味や関心を生かして、働きかけを工夫することで、幼児の「やってみたい」という気持ちが高まり、幼児自ら身近な環境に主体的に関わって、夢中になって遊ぶ姿が多く見られた。その姿から、小学校以降につながる学びや育ちを読み取ったことも大きな成果である。遊びの中で育まれていくことや遊びの中の学びについて、今後も幼児の姿から読み取り、小学校以降の教育につないでいきたい。また、小・中学校との連携をさらに深めていくと共に、互いの教育内容の理解に努め、かけはし期の教育の充実を図りたい。

○今後も小規模園の良さを生かし、異年齢児交流を大切にしながら、小、中学生を含め様々な人と関わり、親しみを感じ、認め合えるような活動を工夫して、人と関わる力を育んでいきたい。

○教職員が積極的に研修・研究活動に取り組んだことは、資質向上や教育内容の充実につながった。今後も学び続けながら、さらなる取組の充実を努める。

大阪府立九条幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、子どもが安心して思いを出し、幼稚園生活を楽しめるよう指導を工夫している」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>幼児一人一人が、安心して自分の思いを出し、存分に遊ぶことを楽しめるような指導を工夫する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内委員会を年6回以上行い、個々の幼児の実態や興味・関心を、教職員全体で共有する。 ・一人一人に応じた指導の充実を図る。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

<p>【年度目標】について</p> <p>○令和7年度末保護者アンケートで、「幼稚園は、子どもが安心して思いを出し、幼稚園生活を楽しめるよう指導を工夫している」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。</p> <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度末保護者アンケートで、「幼稚園は、子どもが安心して思いを出し、幼稚園生活を楽しめるよう指導を工夫している」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が97%であった。 ・8月、3月を除く毎月、園内委員会を行った。日々の幼児の様子について、情報を交換することで、多角的に幼児の実態や興味、関心を捉えることができた。毎回、外部講師に園内委員会に参加してもらうことで、より深い幼児理解ができた。 ・4歳児は登園後の準備について、登園準備に視線が集中するよう、動線を考えたり、手順を絵と字の表にして、次に何をすればよいかが目で見えてわかるような視覚支援を行ったことで、自分で用意をして、遊び出す幼児が増えた。 ・体操やダンス、手遊びなどで様々な動きを取り入れ、体を動かす機会を多くもつようにしたことで、楽しんで体を動かすようになった。 ・それぞれの興味や関心のあることを捉えて、保育に取り入れ、繰り返し遊べるようにしたことで、安心して過ごしたり、言葉が増えていったりすることにつながった。様々な活動に、無理なく楽しんで参加する様子も見られた。 ・正面から話しかけたり、一言で答えられる問いかけをしたりすることで、首の動きや、短い言葉で思いを伝えられるよう配慮をした。少しずつ、思いを伝えようとする姿が見られる。 ・思いを言葉で伝えられるように、短い簡単な言葉から、ゆっくりと待つ聞き、伝わっていることを知らせることで、話すことへの抵抗がなくなるようにした。思いを伝えられないと諦めることもあるが、伝わる方法を一緒に探して考えるうちに、気持ちをたてなお

すようになってきた。

- ・表情や様子から、その幼児の興味や関心が向くことを見つけて、教師と一緒に遊ぶことで、安心して活動するようになった。
- ・個々に応じた支援について、実態に応じて考えたり、見直したりすることで、幼児一人一人が、思いを出して意欲的に活動することにつながってきている。
- ・全教職員で情報を交換、共有し、連携して幼児に関わることで、支援がさらに効果的なものとなった。
- ・教育内容に関する研究、特別支援、人権その他の研修に進んで参加し、教職員各々が資質向上に努めた。

次年度への改善点

- ・来年度も計画的に園内委員会を開き、教職員間での共通理解を深める必要がある。
- ・今後も幼児一人一人に応じた指導を考え、振り返りながら、充実させていくことが大切である。

大阪市立九条幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケートで、「子どもは、『やってみたい』と、身近な環境に興味や関心をもって、好きな遊びを楽しんでいますか」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、自分の心や体を大切にしようとする指導に取り組んでいる」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向3、幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>身近な環境に興味や関心をもって関わり、主体的に活動できるような環境構成や教師の関わりを工夫する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が興味や関心をもって関わりたくなる園庭を中心とした環境について、毎週の保育打ち合わせ時に検討し、充実を図る。 ・ 幼児の興味や関心、教師の教育的意図をもった働きかけについて、「大阪市就学前教育カリキュラム」を参考に、月一回以上検討会をもつ。 	A
<p>取組内容②【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>自分を大切にしようとする指導を工夫する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学期に1回以上、「生命の安全教育」に関する指導を行う。 ・ ホームページや、ほけんだよりなどを通して、年10回以上保護者啓発を行う。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について</p> <p>○令和7年度末保護者アンケートで、「子どもは、『やってみたい』と、身近な環境に興味や関心をもって、好きな遊びを楽しんでいますか」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。</p> <p>○令和7年度末保護者アンケートで、「幼稚園は、自分の心や体を大切にしようとする指導に取り組んでいる」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。</p> <p>【取組内容】について</p> <p>○取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度末保護者アンケートで、「子どもは、『やってみたい』と、身近な環境に興味や関心をもって、好きな遊びを楽しんでいますか」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合は91%であった。 ・ 毎週、幼児が今何に興味をもっているか、教師はどのように働きかけていくべきか、情報交換しながら、打ち合わせをしてきた。『大阪市就学前教育カリキュラム』を参考に、週のねらいと必要な教育的意図をもった働きかけについて話し合い、環境を再構成したり、具体的な働きかけについて検討したりして、週の計画に反映させ、取り組んだ。

・幼児が安心して登園するきっかけや、環境に関わろうとする気持ちにつながるよう、季節に合わせて計画的に様々な草花を育てた。ソラマメ、スナップエンドウ、シソ、バジル、モロヘイヤ、ゴーヤなどの野菜を栽培することで、収穫へ期待をもち、年度当初、新しい環境で戸惑っていた気持ちが落ち着き、「もっとしたい」という気持ちをもつようになった。親子で、プチトマト・オクラ・ピーマン・ナスの中から選び、苗から育てて収穫した。水やりのしやすい水道近くに鉢を置くことで、毎朝水やりをしながら様子を見て、花が咲いて実がなる過程を楽しみにするなど、継続して興味や関心をもつ姿があった。

・5歳児は中庭で茶摘みをし、お茶葉揉みをしてよい香りのお茶をつくった。葉の匂いに興味をもち、園庭に生えていたヨモギにも興味をもち始めたため、すりこぎや透明コップを用意すると、ヨモギをすりこぎで擦ったり、色水にして遊んだりした。その後も、いろいろな草花で、色水づくりを、試しながら楽しんだ。また、年間を通して、いろいろな草花をドライフラワーにした。2学期に改めて見て、その頃の遊びや、季節を振り返ったり、活用してつくって遊んだりするなど、より積極的に遊びに取り入れる姿が見られた。

・4歳児は園庭にいる虫に興味をもって、ダンゴムシをたくさん捕まえていた。「こどもの日の集い」で1人1個虫かごをもらったことで、そこにに入れて育てるようにもなった。葉や石を入れ、週末には家に持ち帰り、世話をする姿が見られた。2学期には、園庭のトンボを見つけたことをきっかけに、トンボになって遊ぶようになった。身に着けられるような「とんぼのめがね」を、教師が一人一人につくったことで、存分に体を動かすようになり、運動会で保護者にも見てもらうことができた。

・園庭のミカンの木にアオムシがいることを知らせると興味をもち、各クラスで育てた。また、地域の方にもアオムシをもらい、ミカンの葉を好んで食べることを知らせると、ミカンの葉を虫かごに入れ、食べるかどうか試して、世話をするようになった。どんどん大きくなり、色や形が変わる日々の変化に気づき、更に興味をもった。

・暑い時期には色水遊び、スーパーボールすくい、水鉄砲、園庭に咲いていた花を入れた氷で遊べる場などの水遊びや、泥遊びなどができる環境を園庭に整えた。様々な遊びの場があることで、好きな遊びを見つけて主体的に遊ぶ姿が見られた。遮光ネットも、例年より長く設置し、より安全に遊べるようにした。

・登園時、園庭に巧技台などで一部サーキットコースをつくっておいたり、遊具を見えやすい場に設置したりするなどして、幼児が「やってみたい」と思う環境づくりに努めた。すると、登園時の用意を急いで遊びに出る意欲的な幼児の姿が増えた。未就園児園庭開放では、園庭に用意している遊具を使っていろいろな遊びのコーナーをつくり、未就園児に合わせた遊びを考え、試しながら準備していた。

・5歳児は、運動会を経験し、これまで以上に体を動かして遊ぶ楽しさを味わっていたので、一輪車、一本歯下駄、竹馬など、チャレンジしたいと思うような遊具を使いやすいように用意した。テラスの柱に1～10までの数字の目印を貼り、可視化して、距離がわかりやすいようにすると、「前の日より、もっと遠くまで行きたい」と、繰り返し遊ぶようになった。また、友達に頑張ったことを見せたり、発表したりする機会を設けるようにすると、「もっとする！」と更に意欲的に取り組むようになった。

・ボールや大縄については、安全に遊べるように出す時期を考慮したり、場所を分けたり、遊び方、簡単なルールを提案したりした。幼児の姿や興味のある遊びに合わせて園庭に出す遊具を精査することで、今やりたい遊びにすぐに取り組めるようになった。

・4歳児が興味をもった絵本の内容に合わせて帽子をつくり、身に着けられるようにすると、登場人物になって表現して遊ぶことを楽しむようになった。園庭でも、物語の内容に合わせた鬼遊びを取り入れることで、楽しさが増していった。登場人物の言葉の掛け合いでやりとりが増え、友達と遊ぶ楽しさも加わり、繰り返し遊んでいる。

・寒い時期には、バケツやペットボトルに水を入れて氷ができるか何日か試した。登園するとすぐに見に行き、毎朝楽しみにして見ている。プールの水が凍っていることに気付いた5歳児は、4歳児にも知らせた。直接体験ができたことで、冷たさや綺麗さなどを感じ、氷に対しての興味が高まり、翌日から自分なりに考えて氷をつくらうとするなどしている。

○取組内容②

・令和7年度末保護者アンケートで、「幼稚園は、自分の心や体を大切にしようとする指導に取り組んでいる」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合は97%であった。

・学期に1度、文部科学省が提唱している「生命の安全教育」に関する指導を取り入れ、保健指導を行った。

【1学期（6月） プライベートパーツについて（全園児）】

5歳児は、昨年度にもプライベートパーツの指導を実施している。教材を掲示しているのを見た幼児の「プライベートパーツの話が始まるのかな」との声が聞こえ、覚えていることがうかがえた。まず、体の部位について、それがどこかをクイズ形式で考えた後に、絵本を使用して、プライベートパーツの大切さや、自分と相手の体を大切にすること（見せない/見ない、触らせない/触らない）を知らせた。体重測定時に下着を着用しているのはなぜか問いかけると、「大事なところだから」「隠す場所だから」と、よく分かっている様子であった。

4歳児は、自分の体に関心をもてるよう、体の部位をクイズ形式で一緒に考え、体は全て大事であることを知らせた。その中でも、特に大切なところ（プライベートパーツ）があることを話し、着替えの時は、すぐに服を着ることが大切であることを説明した。

両学年とも、水遊びやプール遊びの時期には「大事なところから、先に着るんだよ」と言い合う姿や、教師からの声掛けで意識して着替える姿が見られた。

【2学期（10月）自分の気持ちについて（5歳児）】

プライベートパーツの大切さを振り返り、体と同じように心も大切であることを伝えた。体調が悪いと元気が出ない、悲しいと涙が出るなど、体と心のつながりについて説明し、自分の心を大切にするにはどうすればよいかを考えさせた。また、いろいろな表情のイラストを見せて、それはどんな気持ちかを尋ね、考えられるようにした。感じたことや思ったことを、表情や言葉で伝えることが大切であることを話した。指導の振り返りで、友達との遊びの中でのやり取りのイラストを見せて、場面ごとに、どんな表情で、どんな言葉なら相手に伝えたいことが伝わるか考え、話し合った。

【3学期（1月）相手の気持ちについて（5歳児）】

10月の指導内容の、自分の気持ちについて、体が元気だと心も元気になり楽しく遊べるということについて改めて知らせ、体と心の両方を大切にすることを振り返った。その後、『あのひのきもち』（金の星社）という絵本を使用して、「悲しい」や「嬉しい」などの気持ちを表す言葉は同じでも、自分と相手とではその気持ちの大きさが異なることを知らせた。また、数種類の表情のイラストを見せて、どんな気持ちなのかを考えられるようにすると、子どもたちから「〇〇できていいな～っていう顔をしている」「威張っている顔している」「悔しそう」など、自分なりに考えて発言する姿が見られた。

【3学期（3月）「ふわふわことば」と「ちくちくことば」について（4歳児）】 実施予定

・生命の安全教育以外にも、自分を大切にできるような年間を通して保健指導を行った。

4月：手洗い・うがいについて振り返り（5歳児）、保健室の使い方/手洗い・うがいについて（4歳児）

5月：排便について（5歳児）、トイレの使い方について（4歳児）

6月：第一大臼歯について（5歳児）、歯の大切さについて（4歳児）

7月：熱中症について（全園児）

9月：ケガの手当てについて（5歳児）、生活リズムについて（4歳児）

10月：ケガの手当てについて（4歳児）

11月：衣服の調節について（4歳児）

12月：衣服の調節について（5歳児）、風邪の予防について（全園児）

- 1月：手洗いについて振り返り（4歳児）
2月：野菜のなりかたについて（5歳児）、3色食品群について（4歳児）
3月：2年間の成長について（5歳児）実施予定

- ・保健指導を通して、
5歳児はトイレに入るときノックをして「入っていますか」と確認したり、着替えをする場所を考えて、素早く着替えたりする姿が見られるようになった。また、友達同士の会話でも、友達が嫌な気持ちになるのではないかという場面で、「笑うことじゃないよ」「それ、言わないよ」など知らせ合い、友達のことを思いやる気持ちが見られる。
4歳児は、自分たちで周りから見えにくい場所を考えて着替えをする姿が見られた。
- ・毎月、保健指導の内容を園のホームページに掲載するとともに、1、2学期末に各学期の保健指導を紙面にまとめて保護者に配布した。（3学期の内容についても3月終業式で配布）2学期終業式後の保護者会で、2学期に実施した保健指導について、教材を用いて指導内容を知らせる機会を設けた。
- ・保健指導当日の降園連絡で、担任から指導内容と幼児の姿を保護者へ伝えた。

次年度への改善点

○取組内容①

- ・年間栽培計画をたて、計画的に野菜や草花の栽培に取り組んでいきたい。
- ・幼児の興味や関心を探り、その姿に合わせて園庭の環境を見直す必要がある。
- ・幼児の実態を把握するために、週1回の話し合いはとても有効であった。今後も『大阪市就学前教育カリキュラム』を参考にして話し合い、幼児の実態に合わせた保育指導案となるよう取組を進める。

○取組内容②

- ・生命の安全教育は幼児期から知らせることが大切であり、引き続き発達段階に合わせた内容を検討して、指導を行っていきたい。そのために、生命の安全教育に関する講演会などに積極的に参加し、教員のスキルアップを図り、学んだことを幼児に知らせていきたい。また、他の教職員と協力して、自分も相手も大切にできるような指導や声掛けを行っていきたい。
- ・幼稚園ホームページや保護者会を通して、保護者啓発を引き続き行う。

大阪市立九条幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、近隣小・中学校や地域の人と連携して、様々な交流活動を行っている」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。</p>	A
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 幼児の姿から、小学校教育につながる学びの芽を探り、幼児理解を深める</p> <p>指標 ・研修会や講演会、他園の研究保育などに参加したり、研修会の学びを教職員で共有したりする。(年10回以上) ・月に1回以上、幼児の姿や教師の働きかけ、実践記録についてなど、園内での話し合いの機会をもつ。</p> <p>取組内容②【家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 近隣の小・中学校と連携し、互いの教育理解を深めると共に、幼児教育の充実を図る。</p> <p>指標 ・交流活動前後に打ち合わせや振り返りを行い、互いの教育理解や、教育の質の向上を図る。</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>【年度目標】について ○令和7年度末保護者アンケートで、「幼稚園は、近隣小・中学校や地域の人と連携して、様々な交流活動を行っている」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。</p> <p>【取組内容】について ・令和7年度末保護者アンケートで、「幼稚園は、近隣小・中学校や地域の人と連携して、様々な交流活動を行っている」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合は、100%であった。</p> <p>○取組内容① ・第3ブロック研究部専門委員会に10回、研究部部会に2回、他園の研究保育に2回参加し、「遊びの中の育ちと小学校教育とのつながりを考える～幼児が夢中になって遊ぶ姿から～」という研究主題で研修を行った。話し合いや記録の分析をして、小学校とのつながりや連携について考察を深め、研究集録の作成に参加した。研究部会で、元小学校長の「『遊び』がつなぐ幼児教育と小学校教育」の講演会に参加し、他園部員と話し合い、教育内容のつながりへの理解を深めた。年間18回、研修会や講演会、他園の研究保育などに参加した際の学びや、オンライン研修の内容も含め、研修後に参加者が伝達して、教職員で共有するように努めた。他園での取組の工夫を、園の取組にもいかすことができた。 ・毎週、教職員で、保育についての話し合いを行い、幼児の興味や関心に沿った環境づくりに努めた。また、1学期に2回、2学期に1回、「幼児が夢中になって遊ぶ姿」を記録し、そこから幼</p>	

児の育ちを読み取ったり、教師の教育的意図をもった働きかけについて話し合ったりして、実践記録を作成した。他園の専門委員と、実践記録について検討し、まとめるなどして、それぞれの年齢や時期による、幼児の姿や育ちなどを読み取った。幼児期の育ちや小学校教育につながる学びの芽について探ることができた。

・保育実践を基に、毎週1回、夢中になって遊ぶ幼児の姿や教師の働きかけについて、話し合う機会をもった。幼児の姿から、保育の流れや環境構成などについて、さらに幼児が意欲的に遊ぶことができるような教師の働きかけについて話し合いを深め、工夫することができた。また、園内委員会を年間10回行い、個々の幼児の育ちや教師の援助の仕方、小学校へのスムーズな接続などについて学び、教職員で共通理解をすることができた。

○取組内容②

・近隣中学校2校から各2日、中学生が職場体験に訪れた。じっくりと関わって遊ぶ中、中学生が本気になって走る姿に影響を受けるなど、親しみや憧れの気持ちを高めた。

・近隣小学校・中学校の校長、地域の方、区役所の方などを運動会に招き、競技に参加してもらい、一緒に大玉転がしを楽しんだ。自分たちが進学する小学校長とのふれあいで、親しみをもち、進学に向けての期待や安心感につながった。また、近隣小学校・中学校の運動会に、園長・担任2名がそれぞれの学校に分かれて参加した。小学校・中学校の取組や、教育内容を理解する機会になった。

・3学期には、進学に向けて5歳児と小学生と交流をした。一年生が学んでいる『昔遊び』を教えてもらいながら一緒に遊び、緊張がほぐれ、親しみをもてた。小学生への質問を事前に話し合い、当日、その質問に答えてもらい、進学に向けての期待が膨らんだ。「この小学校に入学します。よろしくお願ひします。」と、あいさつをする姿も見られ、「待っています」「楽しみにしています」と、小学生や小学校教師に言ってもらえたことで、安心感をもった。

・近隣小学校との交流において、例年の活動に加えて、今年度初めてとなる計画を2回立てた。1回目は、感染症の拡大防止のため、直接的な交流活動は見送られたが、校長・教頭に校内や作品展を案内してもらい、体育の授業の様子を見るなどして、小学校進学に向けて期待を高めることにつながった。2回目は、校庭で凧揚げをする際に、小学生との交流を提案し、様々な学年の小学生と関わりをもつことができた。交流後には、感謝の手紙をかいて届けるなど、幼児の気持ちを伝え、その後の交流につなげた。

・西中学校区幼小中合同研修会に参加した。幼稚園・小学校・中学校の教職員でグループになって話をする中で、同じ地域の子どもたちと一緒に育てている仲間として、教職員がお互いを知り、つながるきっかけになった。今後、さらに連携を深めていきたい。

次年度への改善点

・次年度も、近隣の学校と交流を計画し、その事前・事後の打ち合わせや、振り返りを丁寧に行うことで、互いの教育内容への理解や、教育の質の向上につなげていきたい。

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立九条幼稚園 学校協議会

1. 総括についての評価

今年度の目標達成状況から、自己評価結果は妥当である。

また、中期目標の結果として、令和7年度末保護者アンケートにおいて、それぞれの項目において肯定的な回答をする保護者の割合は、次のとおりであった。

- ・「子どもは、幼稚園に行くことを楽しいと思っている」97%
- ・「幼稚園は、遊びを中心に直接体験を大切にした教育活動に取り組んでいる」100%
- ・「幼稚園は、子どもの発達段階に合わせて、健やかな体を育む指導をしている」100%
- ・「幼稚園は、様々な連携や交流活動を工夫している」100%

全ての取組について、保護者アンケート結果が、目標値を大きく超えて達成しており、幼稚園の取組の充実と、その発信の成果だと評価できる。

2. 年度目標ごとの評価

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○令和7年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、子どもが安心して思いを出し、幼稚園生活を楽しめるよう指導を工夫している」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

○達成状況の評価に関して妥当である。保護者アンケートは、肯定的評価の割合が97%であり、引き続き評価の維持に努める必要がある。

- ・表情や様子から、その幼児の興味や関心が向くことを見つけて、教師と一緒に遊ぶことで、安心して活動するようになったことがわかる。
- ・年10回の園内委員会で、日々の幼児の様子について情報を交換することで、多角的に幼児の実態やや興味、関心を捉え、幼児理解を深めることにつながっている。
- ・個々に応じた支援について、実態に応じて考えたり、見直したりすることで、幼児一人一人が思いを出して意欲的に活動することにつながっていると思われる。
- ・全教職員で情報を交換、共有し、連携して幼児に関わることで、支援がさらに効果的なものとなっている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○令和7年度末の保護者アンケートで、「子どもは、『やってみたい』と、身近な環境に興味や関心をもって、好きな遊びを楽しんでいますか」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

○令和7年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、自分の心や体を大切にしようとする指導に取り組んでいる」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。

○達成状況の評価に関して妥当である。保護者アンケートは、肯定的評価の割合が91%と97%であり、引き続き評価の維持に努める必要がある。

- ・幼児が安心して登園するきっかけや、環境に関わろうとする気持ちにつながるよう、季節に合わせて計画的に様々な草花、野菜を育てた。栽培活動を通して、収穫へ期待を高めたり、年度当初、新しい環境で戸惑っている気持ちが落ち着いて「もっとしたい」という気持ちをもったりするなど、年間を通した取組により、継続して興味や関心をもつ姿があった。
- ・その時期、季節にあった園庭の環境を考えて工夫することで、多様な直接体験ができ、幼児の興味が高まって、翌日以降、さらに意欲的に取り組む姿につながっているようである。

- ・年間計画に基づき保健指導に取り組んだ。今年度、文部科学省が提唱している「生命の安全教育」に関する指導に、特に重点をおいて取り組んだことで、自分の体への関心を高め、大切にする気持ちや、友達を思いやる姿にもつながったと思われる。
- ・保健指導の内容を園のホームページに掲載すると共に、各学期末にまとめて保護者に配布し、終業式後の保護者会でも、使用した教材を用いて指導内容を知らせる機会を設けた。今後も保護者啓発と合わせて指導を工夫して行ってほしい。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 令和7年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、近隣小・中学校や地域の人と連携して、様々な交流活動を行っている」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。
- 達成状況の評価に関して妥当である。保護者アンケートは、肯定的評価の割合が100%であり、引き続き評価の維持に努める必要がある。
 - ・近隣小・中学校との交流の様子がよく分かった。真似をして同じようにやってみようとする、質問を考えて話す、など、直接的な交流を通して、親しみや、あこがれの気持ちを持ち、園児のその後の遊びにつながったことが分かった。また、「待っています」「楽しみにしています」と、小学生や小学校教師に言ってもらえたことで、安心感ももったようである。
 - ・教職員の合同研修、参観を随時行うことで、互いの取組や教育内容を理解する機会になっている。
 - ・交流後には、感謝の手紙を書いて届けるなど、幼児の気持ちを伝え、その後の交流につながっていた。
 - ・同じ地域の子どもたちと一緒に育てている仲間として、教職員がお互いを知り、つながるきっかけになった。今後、さらに連携を深めてほしい。

3. 今後の学校運営についての意見

- 今年度の目標も含め、保護者アンケートは、全項目について肯定的な評価を得ることができた。今後もそれを維持していけるよう、取組を工夫し、教育内容をさらに充実させてほしい。
- 幼児の興味や関心を生かして、働きかけを工夫することで、幼児の「やってみたい」という気持ちが高まり、幼児自ら身近な環境に主体的に関わって、夢中になって遊ぶ姿が多く見られた。その姿から、小学校以降につながる学びや育ちを読み取ったことも大きな成果である。遊びの中で育まれていくことや遊びの中の学びについて、今後も幼児の姿から読み取り、小学校以降の教育につないでほしい。また、小・中学校との連携をさらに深めていくと共に、互いの教育内容の理解に努めてもらいたい。
- 今後も小規模園の良さを生かし、異年齢児交流を大切にしながら、小、中学生を含め様々な人と関わり、親しみを感じ、認め合えるような活動を工夫して、人と関わる力を育てていく必要がある。
- 本園の特色の一つでもある、給食も含めた食育の取組をさらに発信していくとよい。